

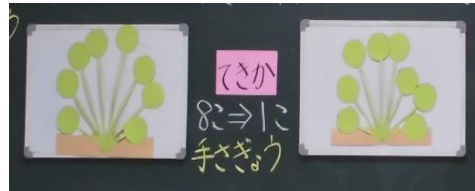
諸江町小学校	プログラミング教育推進校	ICT の活用
--------	--------------	---------

1 研究の重点と具体的な取組

・プログラミング的思考について校内研修会で学習した。

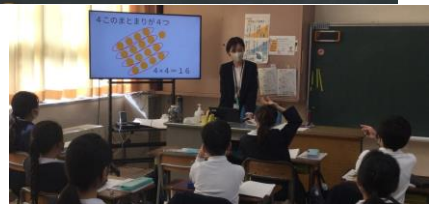
(1) 重点1 児童の追求意欲を高める課題の工夫

児童の問題意識に即して課題を設定したり、解決したいと思うような事象に出合わせたりすることで、児童の追求意欲を高めるようにする。



(2) 重点2 児童が見通しを持つ場の工夫

順序や解決の見通し、方法の見通しなど課題解決の糸口となる「見通し」を持たせ、主体的な参加意欲を高めるようにする。

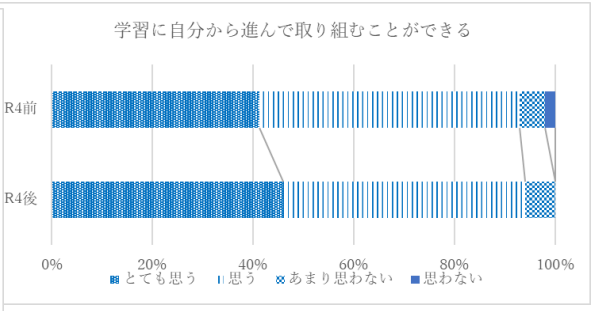
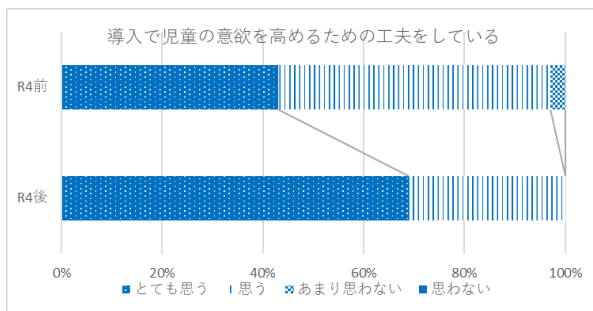


重点1、重点2共に以下の取組を行った。

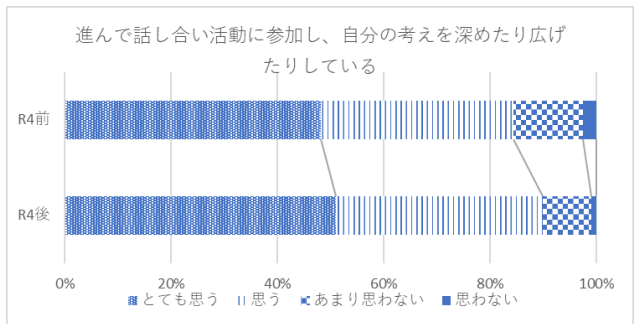
- ①全体研究会で具体的取組の共通理解を図った。ICTの活用方法、活用場面について協議し、理解を深めた。
- ②低・中・高・級外のグループで研究授業を行い、授業整理会で協議した。ICTの効果的な活用方法について話し合い、理解を深めた。また、研究授業で作成したGoogleスライドなどを学年で共有し、授業で活用した。
- ③グループ研での取組を職員全体の「クラスルーム」に掲載し、全職員で取組を共有した。

2 取組の検証

(1) 重点1 児童の追求意欲を高める課題の工夫については児童の肯定的評価は90% 教師の肯定的評価は100%であった。



(2) 重点2 「進んで話し合い活動に参加し、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」と回答した児童は、90%で前年度77%と比べて13%高くなった。このことから、主体的な参加意欲を高めることができたと思える。



3 成果と課題

(1) 成果

・アンケート結果より、児童が主体的

に学ぼうとする意欲を高めることができたと言える。

- ・意欲を高めるには、ICT の活用が効果的であるとわかった。特に、Google スライドの活用により、重点 1、重点 2 について効率的に行うことができることがわかった。
- ・重点 1 には、実物の提示や、提示する問題の工夫（矛盾が生じる問題、式は同じだが、「答え」は違うなど）も意欲の喚起には効果的であることがわかった。

(2) 課題

Google スライドや既習の掲示、板書をクラスルームやオクリンクに掲載することで見通しを持つ場の工夫をした実践は見られたが、重点 2 の取組は充分でなかった。「順序の見通し」「方法の見通し」「解決と可能性の見通し」など「見通し」について、吟味し、実践を行っていききたい。